

吉田松陰



* 吉田松陰関係資料164「絹本着色吉田松陰像（自賛）」の肖像部分。同様の自賛肖像は他に5幅が知られています。
(両写真とも当館のウェブサイトからダウンロードできます)

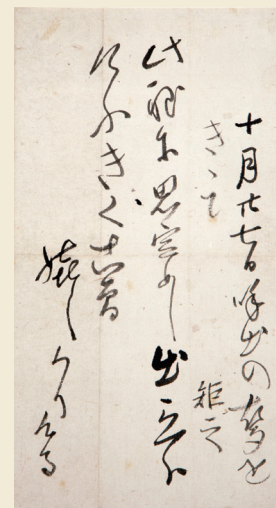
解説

1830（文政13）年に萩で生まれた吉田松陰は、江戸に滞在中の1853（嘉永6）年、黒船の浦賀来航を見ました。翌年ペリーが日米和親条約締結のために再航した際、下田に停泊中の米艦へ赴き、乗船して密航を訴えますが、拒否されました。自首した松陰は長州へ檻送され、野山獄に幽囚されました。

出獄を許され生家の杉家に幽閉の身となった松陰は叔父玉木文之進のひらいた松下村塾を引き継ぎ、久坂玄瑞や高杉晋作・伊藤博文・山県有朋・吉田稔麿・入江九一・前原一誠・品川弥二郎・山田顕義などの人々を教育していきました。

やがて大老井伊直弼による安政の大獄が始まると、野山獄に再入獄していた松陰は江戸に送られ、1859（安政6）年、満29歳の若さで斬刑に処されました。下の写真は、刑場に向かう直前に松陰が残した絶筆です。

「十月廿七日呼出の声をきゝて 矩之（松陰）
此程に 思定めし出立は
けふきくこそ 嬉しかりける」



* 吉田松陰関係資料171「吉田松陰絶筆」
* 当館の「吉田松陰関係資料（吉田家伝来）」754点は県の有形文化財に指定されています。